国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

208
50

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

青楼夜世界闇明月

自序

ごちゆう序

東都

やみなる

よしこいへる

なのりしらづけさまを

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

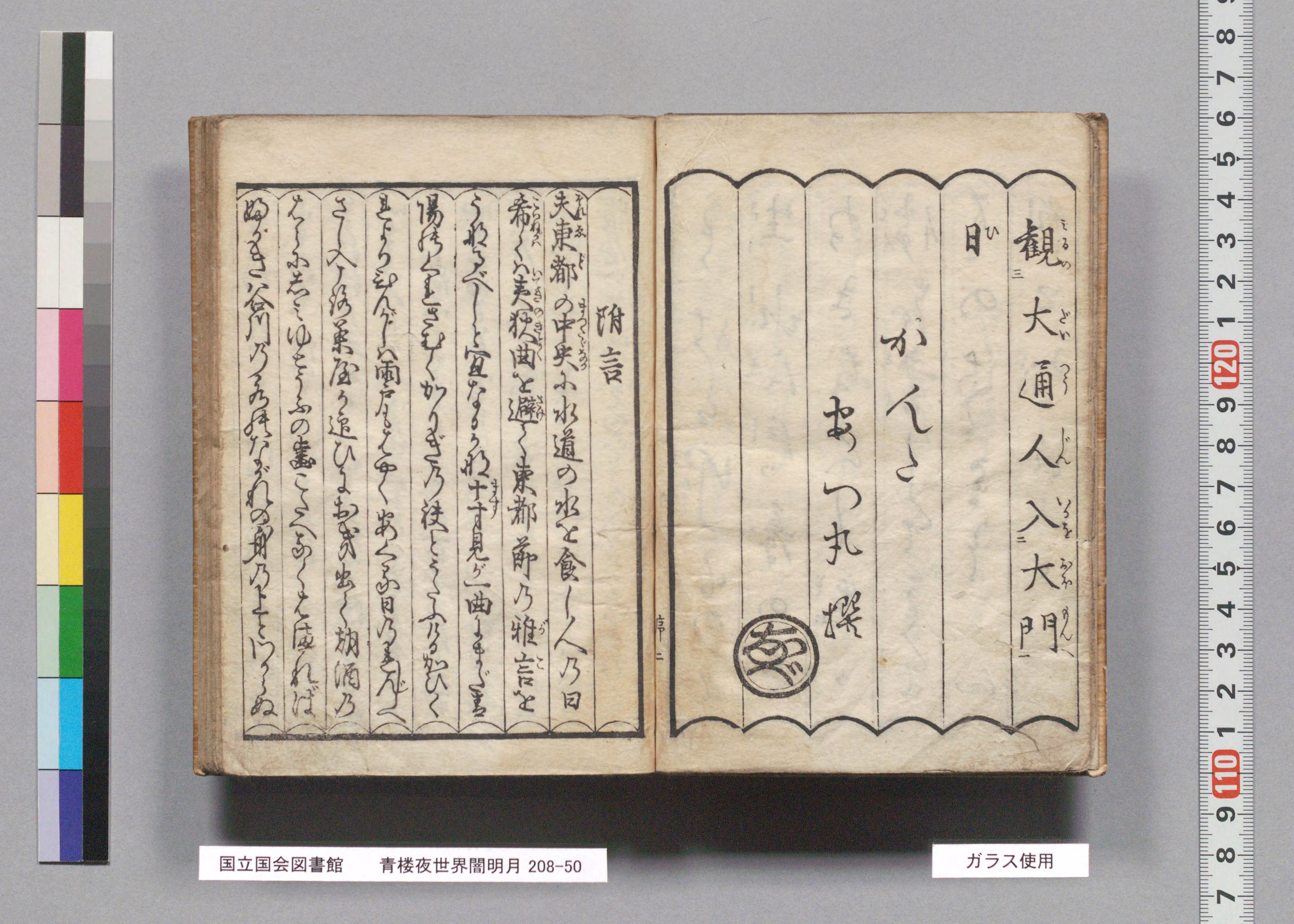
おみとゆ
れや牛
つゝえき
てゝ出る
りゝ
ちゝの

序一

ゆゝ
生れ
ぬき
傳記
りの
相と

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用



観大通人入大門

日

かんさ

おつ丸 撰

序二

附言

夫東都の中央ふ水道の水を食し人乃日
希くハ夷狄曲を避くく東都節乃雅言を
うれるべしと宜なるうれ十寸見ゲ一曲ゝまぐ書
陽ちくまもくかりぎ乃後とうくるひく
まとうもんぐハ雨戸もとゆくあくふ日乃まゑ
さく入り物果ゑう追ひよれ出く物酒乃
ゑくふたくゆくうふの蟲こくくあくくゑれば
ぬぐき谷門乃ゑれなぐれの舟乃ゑとくうぬ

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

きものゝ[illegible]うれしゝふざんをの一云に
万両を抛ちかるゝふれをその[illegible]旬をそゝ
をまつ川二階乃ちゝごゝろにのぼり
はるあまこゝ六畳平枡のづゝむれゝゝ乃坂と
なる[illegible]屋乃[illegible]に甲れくやぼてんよう
れゝ[illegible]ゝゝゝゝゝ[illegible]里をゝゝふ罫加る
田町よりごゝ舟へ堀乃さんをゝはるぐ
[illegible]龍ゝ平よりあびむるゝゝ坂前と
時を同ふゝむうん二つ川ゝ[illegible]墨乃
かぎりてひそゝ不枡やこゝうそゝ こゝウ
[illegible]ゝん乃平矣ゝ宇ゝ[illegible]ひぎのちゝを十
寸見ゞ一曲ゝゝもゝゝふ中ゝ町のさゝゝ
ゝゝけざれども枡くゝ宇ゝ[illegible]ゝ[illegible]の花を
ちゝしゝはゝゝゝ乃間ようゞくゝ
発せゞむ大神樂源沢ゞ曲まりかど
をぬきれば見物乃人びゝくゝまゝを
ゝゞれ奥はきゝく物ゝゝ貫をゝれく
ふゝゞ彼をゝちゝこれを送るゝを

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50
ガラス使用

# 夜世界

## 總目録


▲酉ノ刻暮六ツ時

大廓中之間戯談 附 座鋪之驕劇

▲戌ノ刻夜五ツ時

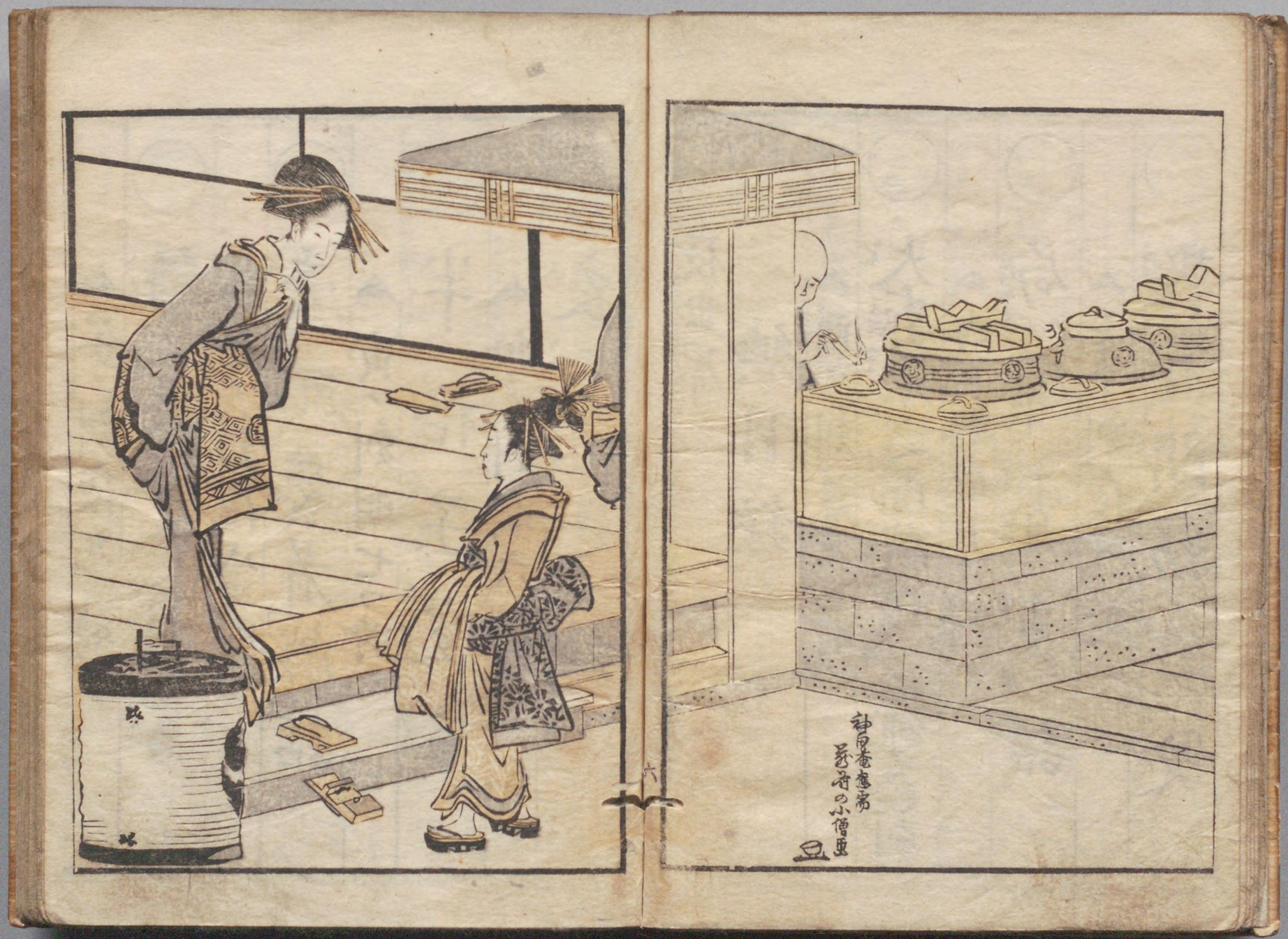
局廓 霄多語

▲亥ノ刻夜四ツ時

數有間勒傾契


国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用




国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

▲子ノ刻夜九ツ時

○雛妓之真言

▲丑ノ刻夜八ツ時

○牽頭藝者戯話

▲寅ノ刻明七ツ時

○半格子空言

▲卯ノ刻明六ツ時

○衣々之袖引

下略

青樓夜世界闇明月

神田　あ川丸作

宵鳥　ぶんまわ　羽書ハサ〳〵

[昏達]コラン〳〵

ちんのをとギク〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

六ツ時

夫古句曰〳〵

ふ〳〵ほ〳〵ふまこうれた夜尺世のくる

あ侍合の辻うらやしまひくるんの大こ翁

きまし明〳〵ふなさいる

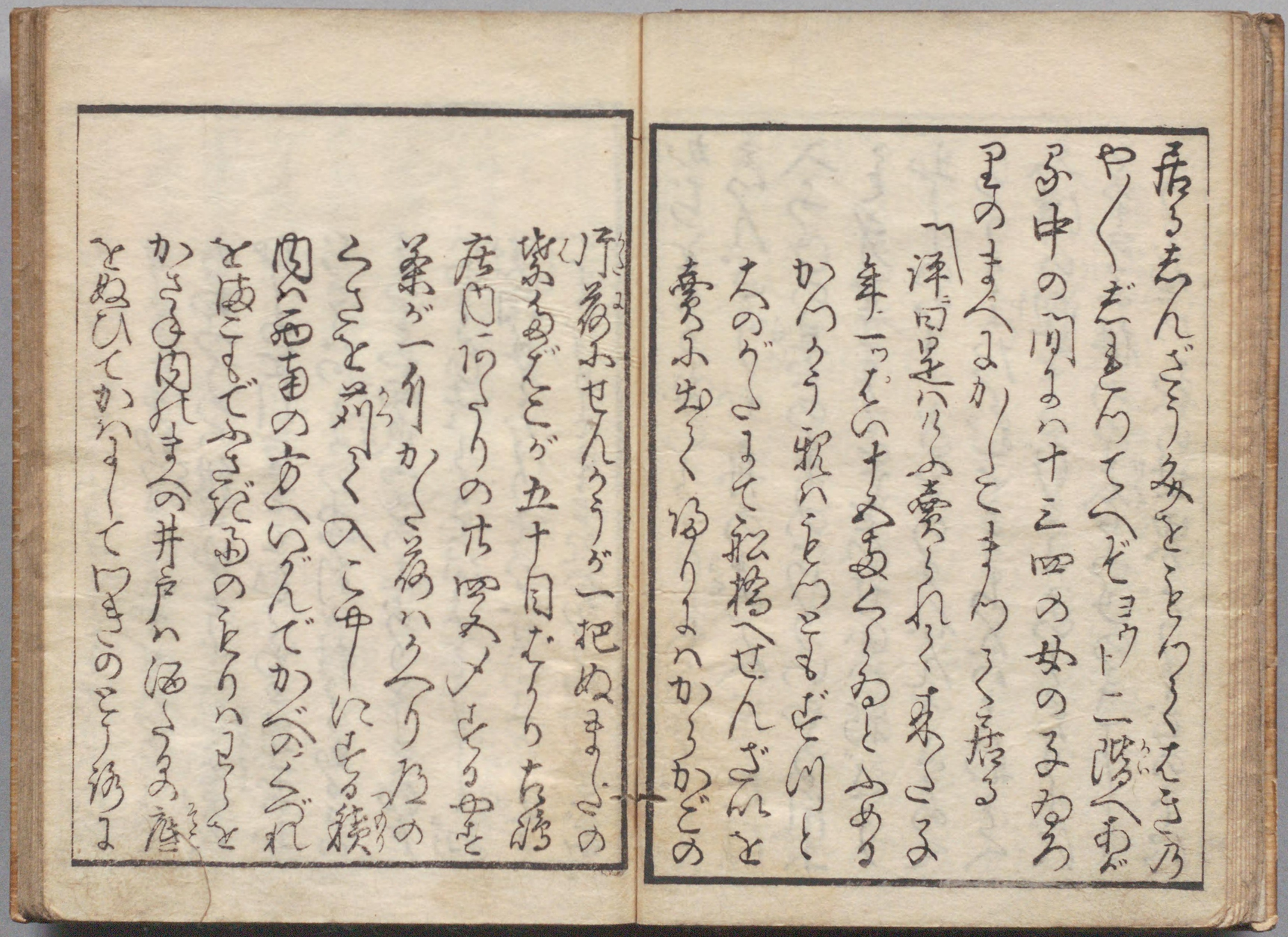
爰ニ昔万治之頃吉原京町壹丁目ニ
三浦屋四郎左衛門ト言有ニ娼女家

夫ゲ二階の夕きせきしの廊ゑけく
てんてんふぐるくわぐふたちごの吉を
かゑひひ家きぬてこにさとあるだ
かるへの衣桁よう青海浪乃
縫うきらくまんじ紋をぬぐひ
夫帆所帆ちんてかり空しまハ
居ぢぐをのいりを抱ろしやぐてんの

かぢをとり抱ひうんぬあひをこぐ
ちんざう出舟のあ人たれば
入ふひの墓のとのいりいやる風ふ
と男をまうとをんせいい新ざう
出しのなりざをのうれんがうあこ
らううよたるむてうちんハうれとへ
入津の帆をさげるよまてなるだ
ふ家ふ様のうまふのひのきてよ
ようだの表の世界ちごのトに

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

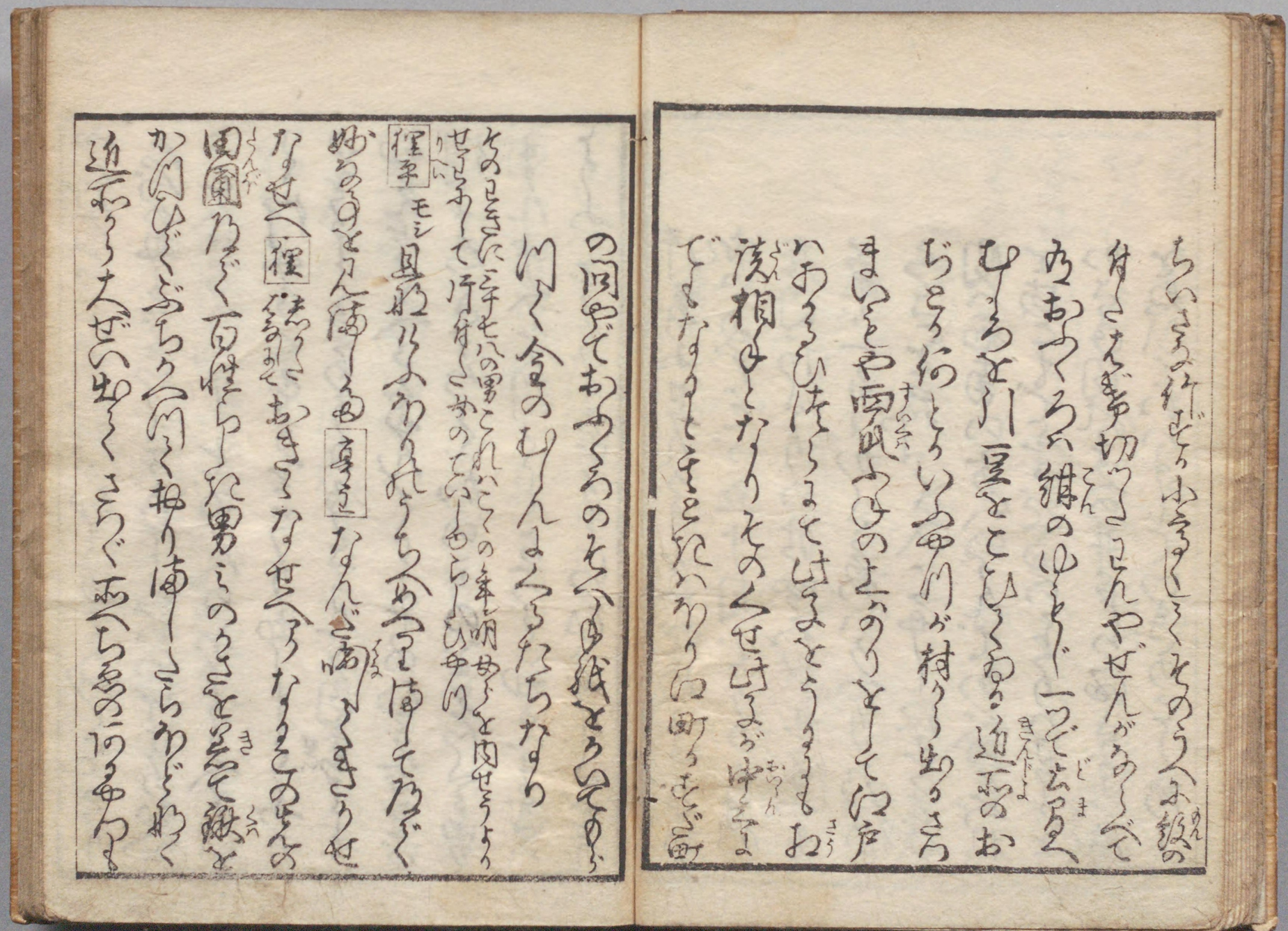
ガラス使用



居るちんざう女をとりつくたきう乃
やりくだまりてへどゝョウトニ陽へ
ふ中の間よハ十三四の女のるゐろ
まのまへよかりてまりつく居る
洋ゴ足ハりの夢ちられくまるさる
年一つたの十めるまくるとある
かりうう歌ハうをりつまどりと
大のぐさまて私指へせんざんを
夢ふ出くゆりよかりかどの
作ふせんうりが一把ぬまるこの
紫ゐどとが五十目なりち居
居門ひりりの古四メとる世を
菓ぐ一作かくゐ居いりりの
ちをを形くへこ年にる穢
関ハ西毒の方へいんでかべのくれ
をゆこまでふまだ面のりいりを
かさる関れまの井戸い海ちる唐
をぬひてかいすてい口きのそ海よ

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

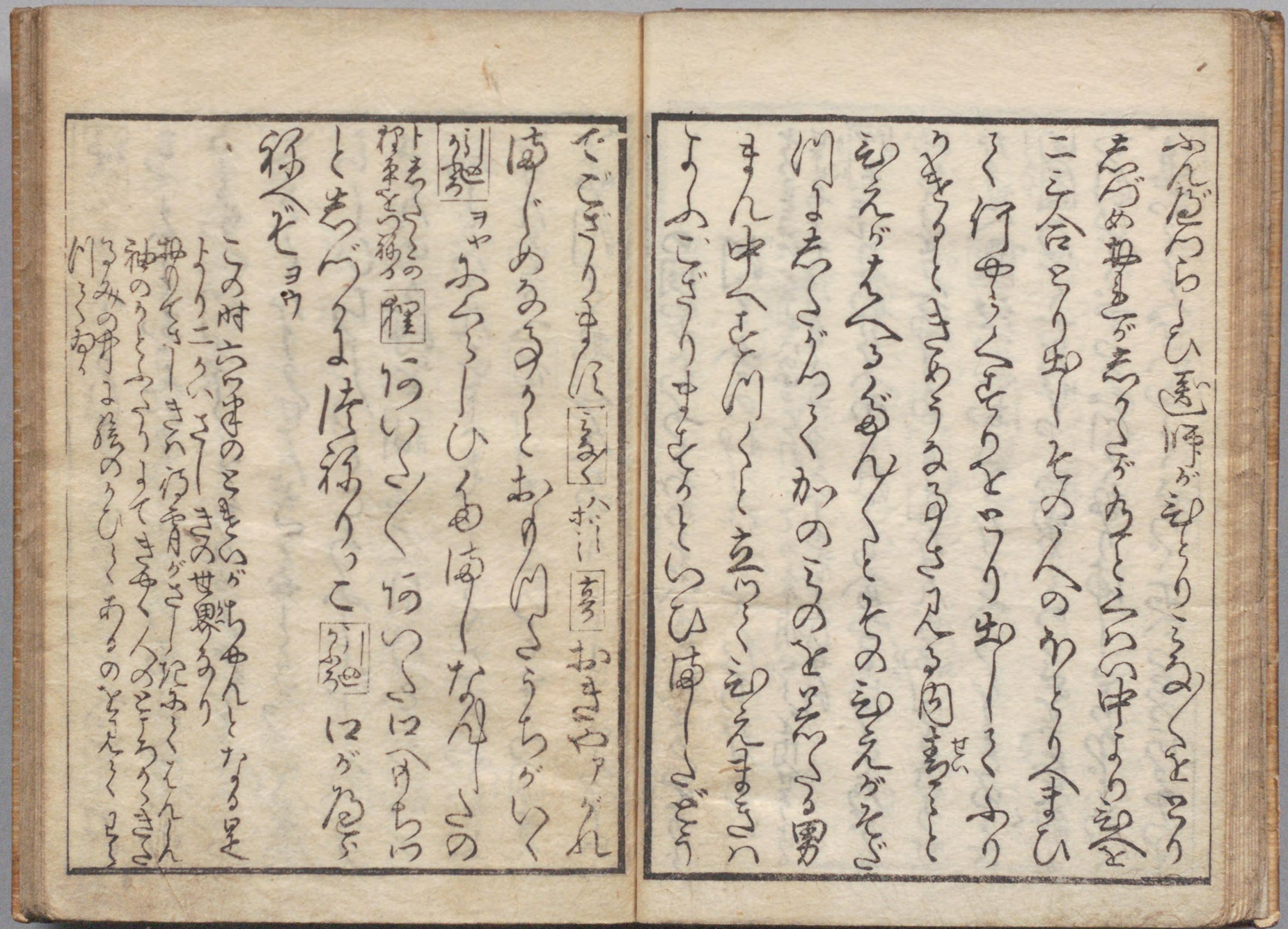


ちいさなの行ぶそうふくそのうへふ級の
外さんぎ手切つるこんやぜんがろ〳〵べて
内おつくろへ紺のゆもと一つでたうと
むかうを川豆をとひくるる近所のお
じろうに行ところいつもの川が材〳〵出るさう
まいをや西瓜やのようのとて江戸
いおろひたくるとけるようとうるもお
茂相ひとなりそのくせけるようゆもよ
でもなすもとたいわりに町うさぐ面

の同じでおつくろのそへ出ぬそのうら
川く金のむりんようたちなり
その日きに三十七八の男これ
せうとうて行ぬさかのて
程平 モシ 具合りよりうれうちへめつを降てたぐく
ぬかのをとん降しるも 京言 なんぐ降くまきりせ
なすせへ 程 ぬきのおきてなせへうなるこのぬん
国園 乃ぐく百姓ちの男らのうさをそて紙を
かの川ひぐぐぶちうの川く抱り降くさらわぐれく
近おうう大ぜい出く

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用



国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

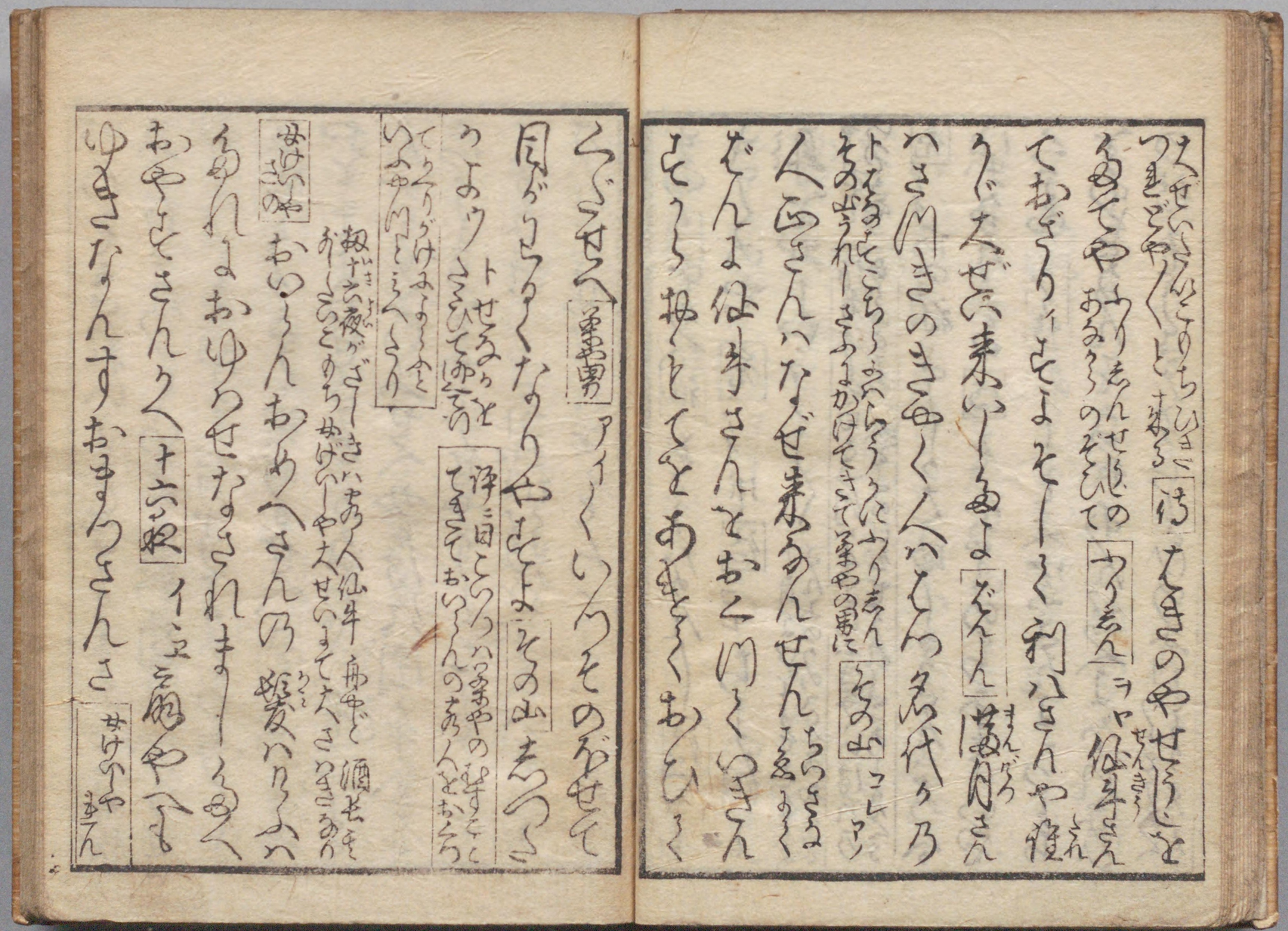
ガラス使用

袖の あんとうひくあっちんをへ 結書 うゃく
ちゃんとあんなんしこのあふ中の町
うゝあゝ川ゝう小ゑんがたゞぎゝく言の
ねとくなりせんぎくあゝとさゃ写廉
らしひちゃんところふでいし級写
さんの身を 袖 ホンニ目乃ゝそっ移が
ゆくゝあんをよそ一くこんやお出
なんをうへ 結 アイちゃさのとまん屋さん
をあ門くねんあんしゃさふ

まつりとゝ 袖 をうなんし 結 コレ
きくのや 兎 アイ 結 コレ ちゃりと
耳を出しゃアゝくさト耳をはをせこあまま
ゆアイをと 作者評 ヒ口こ門八金ゝいきくのはれ乃
いるてきゝ ねぐのころくあをそあひ出せられさあとゝ写
兎 アイ 何の祝さゝうた面しまさんへ写今
出ゑんしゝあ 結 そんゑゝのちふそういて
くうゃ 袖 ゆり 結 ぬしとゝ又字ふさんよちちち
をあをゝんをゝるゞぜあんゝ移へよれ安ひ
の 結 をうさだらしひのふトらうふそゝ人

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用



たぜいさんにとりちひさご
つまごやりくとすまる 待 たきのやせうじを
あてやりちんせんの ウリちん 伊平さん
おるくのそひて
ておざりィとそよそしく利八さんや復
うでたぜい来いしあよ ぞんん 蒙月さん
いさんきのきあくんハとつ名代ゥ乃
トくるとこちくこうこうこうこうこ
その出られーさるよかけてきて茶やの男に その山 コレアソ
人ゆさんいなぜ来あるんせんちちるく
ぜんよ伊平さんをおくりくいきん
そうゆをてをあをくおひく

くでさせへ 茶屋男 アイくいつそのおせて
同ぐらくなりやをそよ その山 ちつさ
うよウトせるをさひてゆそ 浮三日ちつハ茶やのをすそと
てうりがけみくくかと
いよゆりとうんくうり

数十六夜ゲざ きいあん仙牛角やで酒を
おくしこのちゆげいしゆ大せいまてたくさつきあり

ゆけいさのや おいくんおめへさんの髪ハりふハ
ちゆれよおゆらせなされまくあく
おやとさんくく 十六の夜 イエ扇やへも
ゆきなんすおまつさんさ ゆけいやあん

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

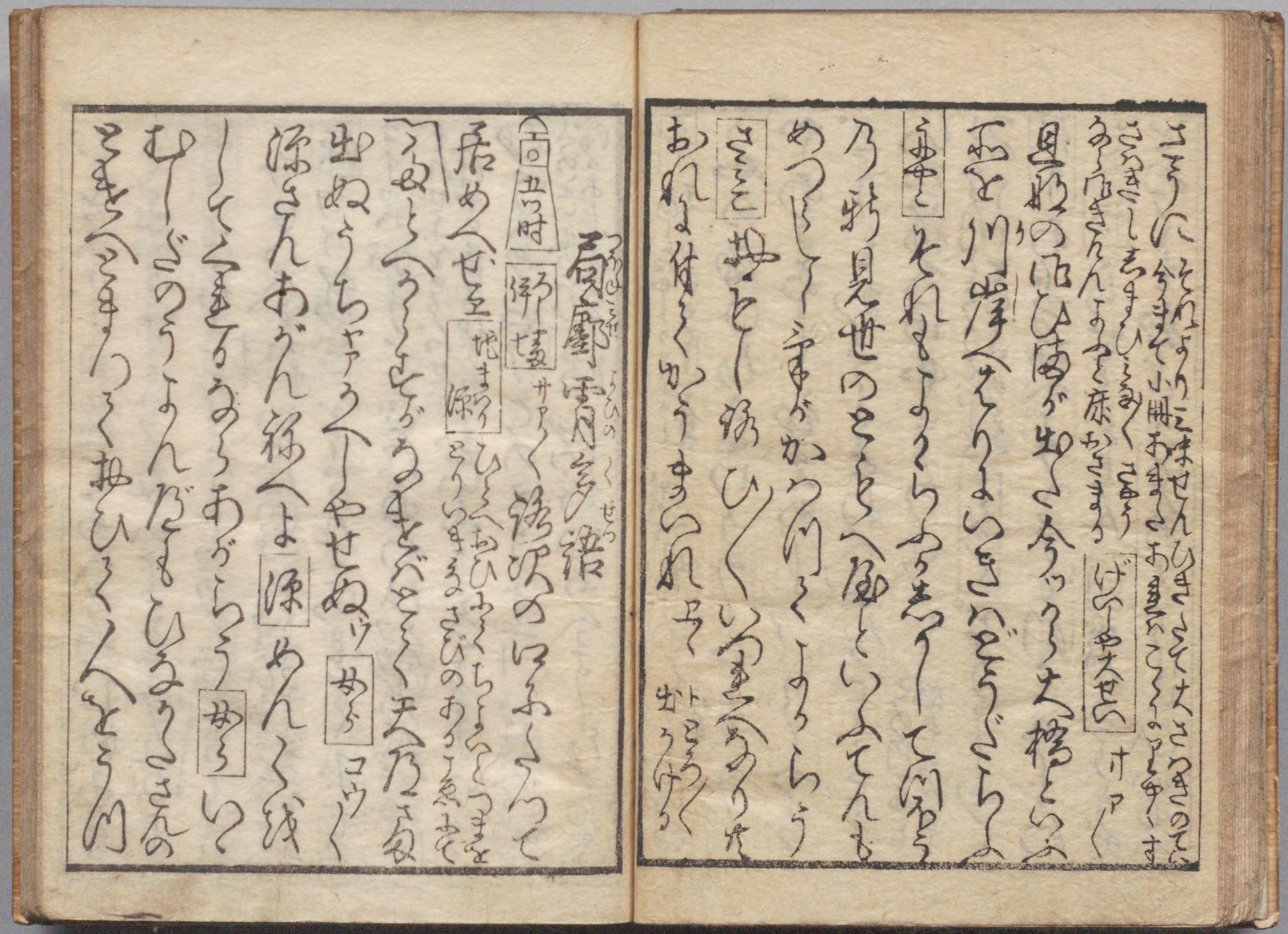
ガラス使用

いつそきれいごごりまるとの新造
平吉さんくいつこと新造を麦めり世
なんしゐる 仙平 コリヤよろらふく
平吉 うるさくせあるぜへ さこと つうまつ
やをまよつせこきんゐるつご 平 コレよく
人のらやをいつぜへ加房に園寺へ三分
きつぎまをやせやうとおとりて
ぢうゐはらぐさつとはとまるをせあり 十六 いとあふ
さんこ味せんをとんて来なんし

平 ひとはやうとうりくとこきこを食 新造 仙平のこうらや
うやの角ひきつりめや麦めり
やあるあしゐえめしりあるり
どうもかつこまあへ声がヒイとこ
いつ行へ行やまつこ この門番 酒屋さんさ
とくりくりこうこづて
つこうこをいるめる 三ゐ よく どうしこく
仙平 あつぶ行へよくさこ
せへ 侍 らせこうとん河岸ゐこうで
をあくも知ごご ぢ新 さこ ひかあへ

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用



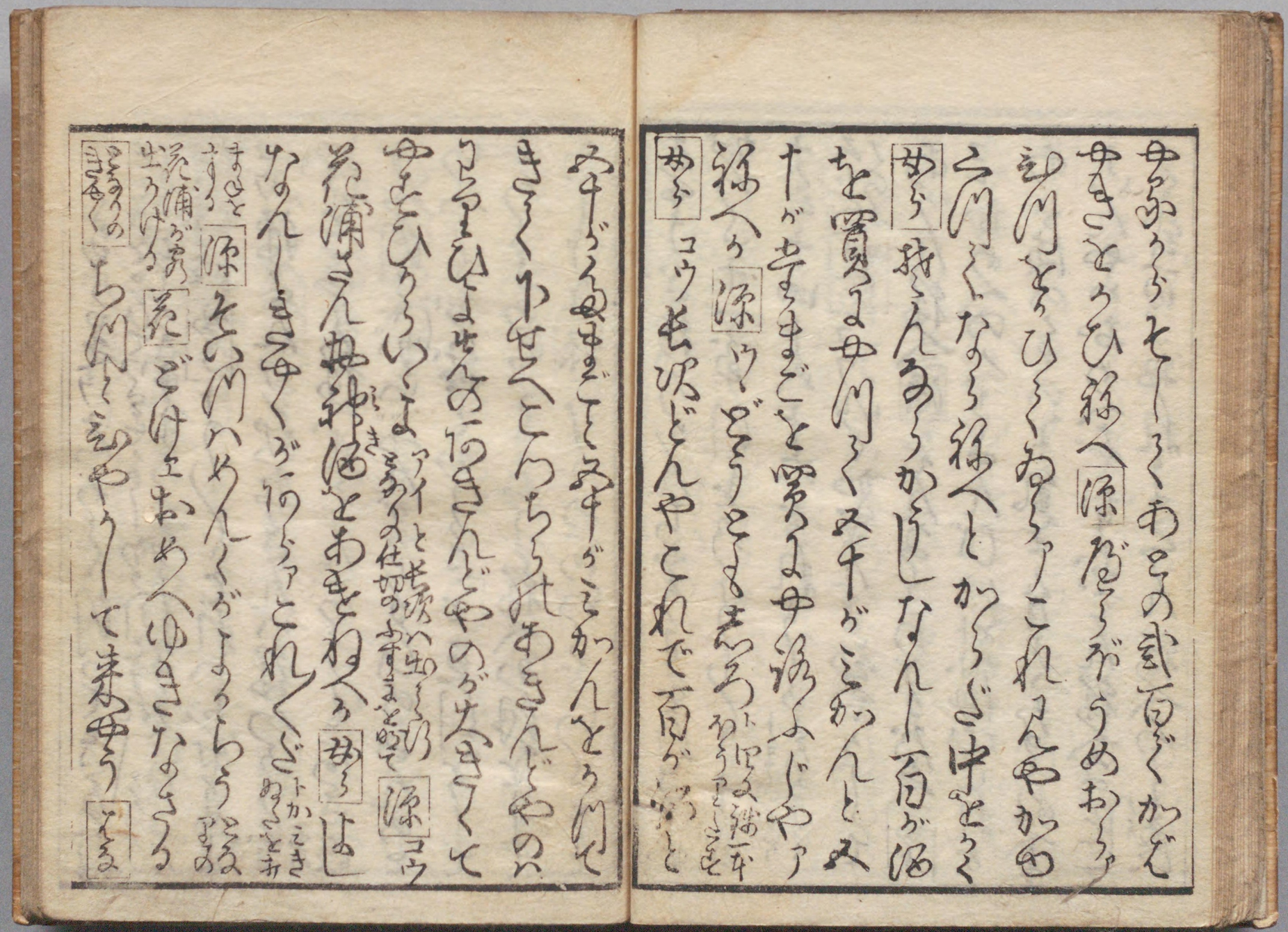
国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

むきをふしゝゐ　源　てめへうつむけふるう
と来うすぐアねいてとんなよ
女ゝ　まゝりなんしゝヨウ　源　こうこの
よてはハ今程かん田アトこうひるゝあるこへ
出くやうこんそばとよ
源　ヲイ稼ぎをゝんといまゝくトせエ
コイツハがうてきたあつひつくとゆまこうこ
それぜふをゝんせトまゝまひ
そばやの者のむゝふへ云いふこうこいよういつ
むうるくやアこのこうナ一トうこはへこれ
ゝのといぬの云ひ
源　ゐけいつへまゝひちく

ゝ来ゆうぐ銭乃かんだゆうゝとゝれさゝわつ
かゝつゝゝ十一ゐ月をりうゝゝく十弐
ゝこ十四ゝ十六ゝそれゝうれゝうゝひゝうゝ
ゝるゝ　姥のゝ　コウゝくかぎんよゝゆうゝて
あゝん稼へ　源　そんゝあゝるゝ
コおめへのくゝんびひにをトかゆひてこれが
あゝ陸のゝをゝ氣をゝ有くなゝぬよ
ゝんやいおめへきゝおごん稼へゝ
ゝく弐百アあれよくゝん稼へゝ

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50
ガラス使用

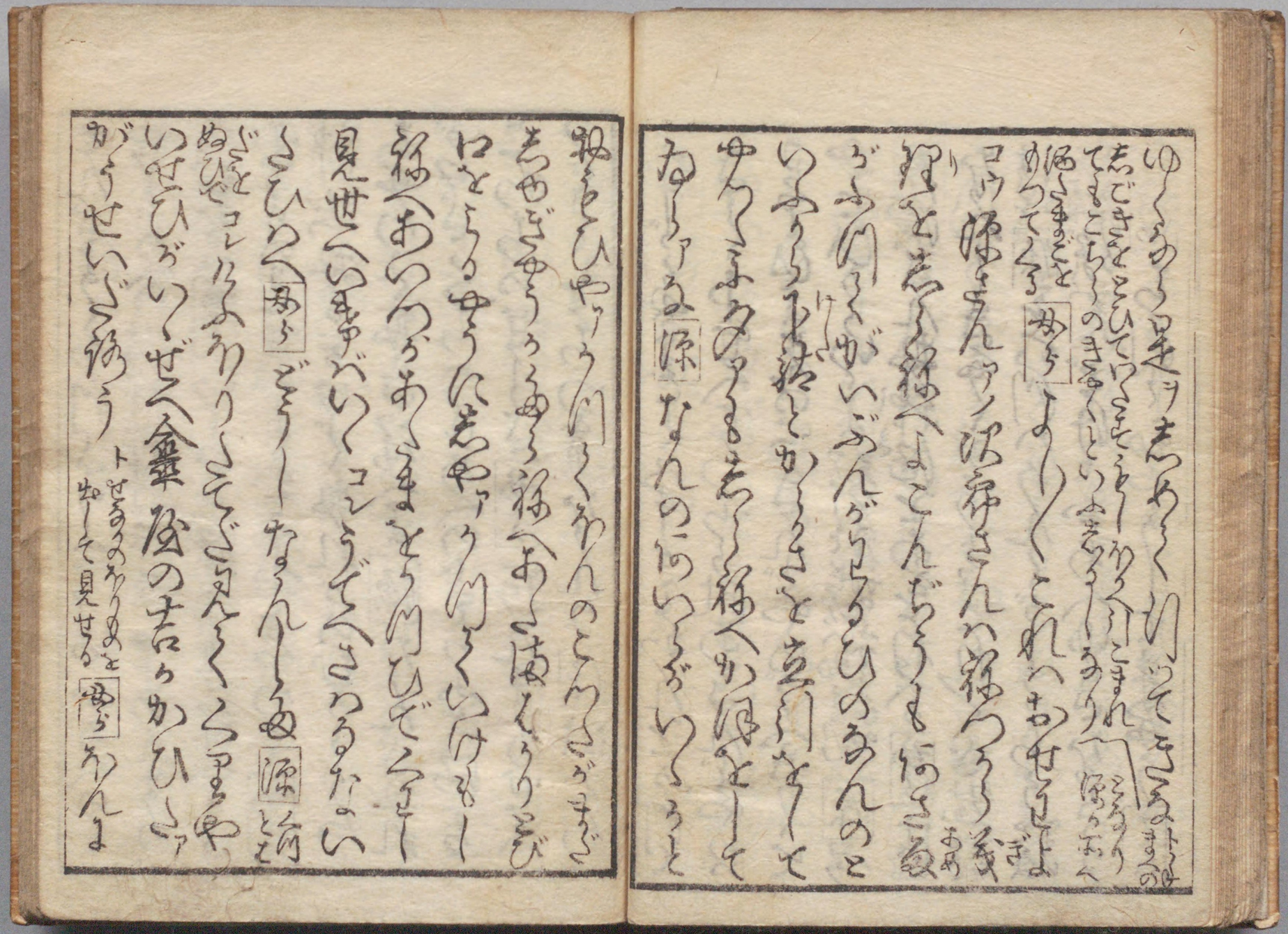


ゆふうりそしてくわとの武百ぐくかぐで
ゆきとうひ移へ源だ屋ぐがうめおりア
ゑ門をひくくゆりアこれんやかゆ
門くなら移へとかりぐ中をうく
ゆら我ん源ゆりかりしなんー百が酒
ちを買よゆ門くゆ武ゆ千がこかんと又
ナがゆまゆまごを買よゆ移ふどやア
移へう源ウ・どうとまゆりかりアこを
ゆら コウ出どんやこれで百がかと

ゆゆぐくゆまごゆゆぐがこかんをうゆて
きくゆゆゆゆんゆゆゆんどやのい
りうゆひよゆゆんのきんどやのが大きくて
ゆとひりいよ（アイと嫉妬の仕方のすまを略して）源コウ
花浦さん和泉酒とあをとゆへう ゆら よ
なんしきゆくぐのりとれくぐ（トかこきゆくを抜）
まるとう源そ門ゆりんくぐよりらうゆの
花浦ゆ武出りゆう花ぐけエおゆへゆきなるる
ゆゆりのまるく ちゆくゑやうして来ゆう
ゆるる

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用



ゆくゆくは是ゥ志ゥ
志ゥごきをとひてゥとゥゥゥ
てゥとこゥゥのきゥゥといふゥ
ゥゥゥまごを
ゥつてゥゥ　あゥ　よゥゥ
コウ　ゥゥゥゥゥゥ
ゥゥとゥゥゥゥゥゥ
ゥゥゥゥゥゥゥゥ
ゥゥゥゥゥゥゥゥ
ゥゥ

とんどさくらもちのこの
やアーめへの（トヤ）つぎ（ツイデ）ぐくのむ（ムベ）源コレあんまり
のむなへ（めら）いくいる源よろヤ様へまる
小ろうのこんせくくも出さとこつく（めら）
おーむつ（ムツ）ぬまぐ（ガ）はぐ（グ）ぬれ（ガ）のむろうろう
ちゆうくぬき行くよ源なんぐ（ガ）ぬれ
ぐはぐくちゆうめへのぐ（ガ）らふぐ（ガ）酒ち
こうちのぜすぐ（ガ）めら（ラ）行んまりせふ
くくをちつぎなるん源ひさん

つまめろうくちやアぐ（ガ）りて（トかんしゃくをおこしまくる）
をこりて（めら）すこしのきアレくく長ひどんこの
やろうをうさとの出しくくぐさく
そそーをーくあぎアやアつけのぐ（ガ）ア
源そそーもさを海ひどひをくひきろ
ゆアくーにまれらア（ヨウ）ぬ（ガ）れ行のとを
ちんぬまいづまくぜりのをてち
りんくちのやうふなるをくろ
なるひろ

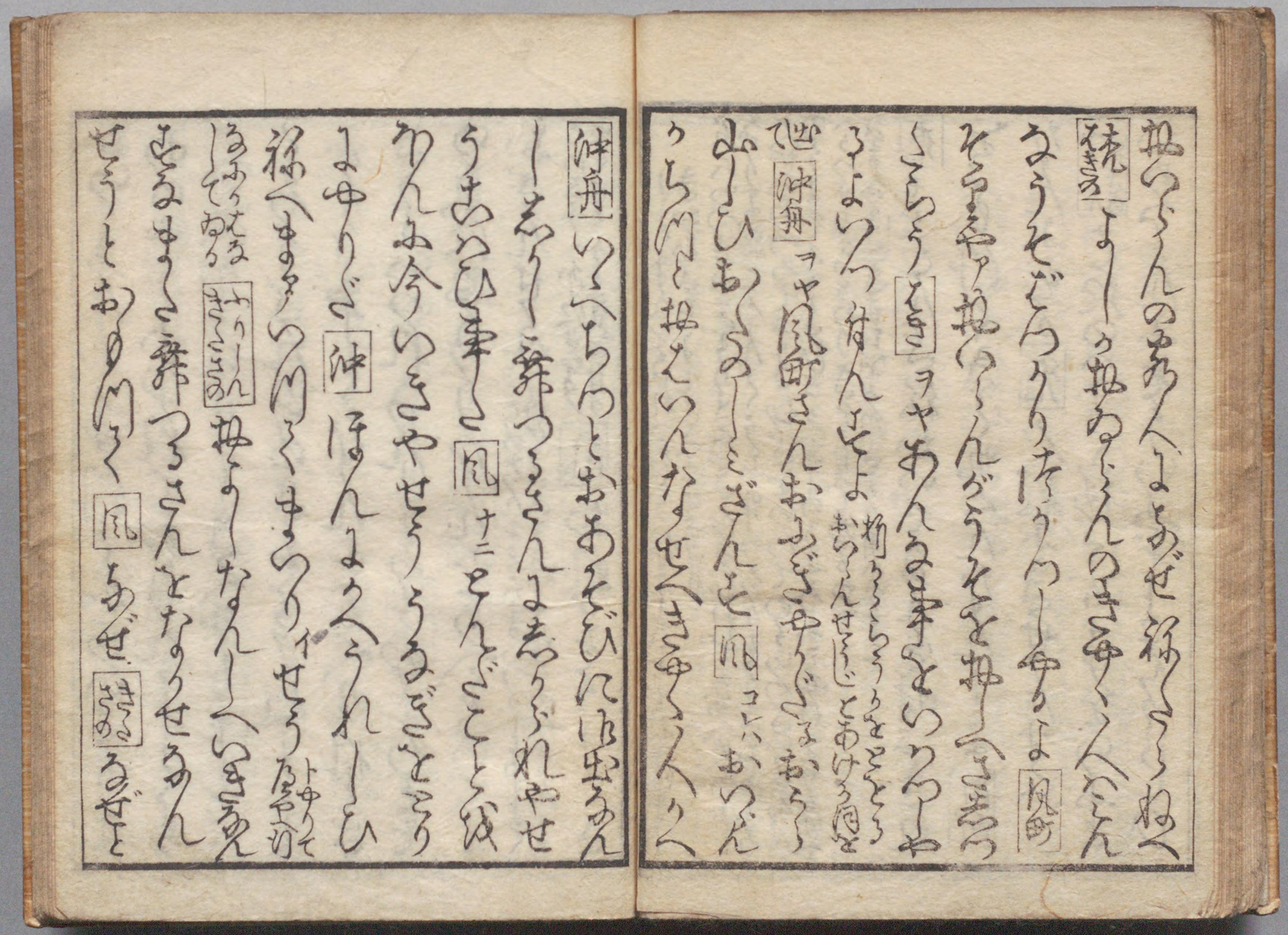
国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

# 數有間敷傾城契

○四ツ半ごろ新造買の客そ[illegible]
[illegible]
すきまてそのゆうにおそひ[illegible]
そうのうれるきまくいりこ[illegible]
ゆうじめおいらんおさんを[illegible]
きこひてあるくすきまなり

○ひいろこ茶つぼいまごさんへ[illegible]
このあたりしんぱいもちそ
[illegible]
[illegible]
[illegible]



ねつぐんのあんよあがせ　ねつぐんねく
【はれ　くもり】　よーゝねねつぐんのきあくんくんん
ようそだつりたうんつーゝやりよ　【風】
そりそりゃねつぐんぐうそをねつくくきつ
くらうとき　【ヨヤ】　あんるまをいろつーゝや
ろよいつけんよよ　物ねつぐぐぐぐぐをとと
世　【沖舟】　ヨヤ風町さんおふぐさやぐぐおぐぐ
みーひねつぐーゝーゝざんと　【風】　コレハおいぐん
うちりりとねくいんなせくきあくくんりくん

【沖舟】　いくへちんとおあそびれはるあん
ーゝぐぐ　舞つぐぐさんよあぐぐれやせ
うあひひまぐ　【風】　ナニとんぐぐこと成
ねんあ今いきやせうぐうるぐぐをとり
よゆりぐ　【沖】　ほんよくくうれーひ
祝くまぐりりくくまつりィせう　ゆりやかて
ほふてねる　【はりしんきんさん】　ねぐーなんーくいきあん
をるまぐぐ舞つるさんをなりせるあん
せうとおりりく　【風】　あぐせ　【きるのさ】　るぐせと

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

おいてゑんしゝ毋門くかいなのいさうよ
あのゆうふれてゐるゑんしゝゑ
えていりうのざゝきくゆりやさい
くうりうざんさそのさそうあぬしも
ゝりィ事もなんとめくりれどさ
きうゝいれゑんしゝゆうえつとそ
の乳に抱ゑりなんさゑのへとのでゑ
おざんせんゝとそのゑんそうゑいまつゝゆよく
ゑのゑゑくかれゑゑすのまれゝゑゆへだんじ
でゑゑうゝと乳を生る 風 おれがそうゝさ

とつゝゝ今沖舟さんをかゝれやァゝ
りへゝそれきゝりよゝくゆゝゝ
かまゝしいあるゆへ 鼓ヨヤニアなんゑ
ゑをおいてなんとよ 鼓 それさう
ゆりゆんせんゝゑゑつゝゝこそ
そんゑゝいゝ行へうゝかんゝゝんゝゝぬへ
何やまゝつゝゝひゝゝゝ

ト実にごもっとこゝきてくれれど
みるかぎりまるといふやうなりてう

風サアこんなるがてで
ますはふー移へ今うるだがくるうう
まめへせんどことりくまるこゝろしま
へごらして 舞 アイ扨いくんのひごちへ
湯をわーして扨きいーきくのや
ごーもうごことりくきくくるまや
きくさまさん茶をわじなんー きく
アイわじくおさういとそのりん
の上ふ わごくくまくのやくりんと扨てくる 舞 その次

くこらへうまくくゆくおこしやトつゝ西
ゆくちよりかアきんおアを重ろうるかな
ゆくをうまくくをくよこすま 風 ナンダあけて
ヨん移へでも大くくちまつてくれろご
らくくとひろなんごくごーもうてさん
すぐナごりかひくくならアはひよ
そうしてあげりくくきるものうう
よこんやいくもへくく移るとそういや
つくりミ ヨやくく舞つるさんが
るんせうトあげるくくちんそうあアやを
いひるくりいくれくりこうへくくるくと

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

なるほどりいけをうぐいすしくせをとあけ　風　このるの巻
大いきをきろていきるりまを
えびつくりさせて　あり　やあ星　ア　きてさるのさん
きらくおくんるんーよ　ヤヤとうちと
たてる事が風町さんおこのりがうみおさ
アまいすよ　亲　なんるさこのるいうれ
きりくるるよ　風　だいろでもきてろ
あアや　ごーもうてあさりいを　アきてさ
さのさんるをあるーなんートこそくるを
きる　そーてるしくゆりるんーさ　ゆり

くらをかうちのーくるよ　きる　そーておりを
らんよきられるらるどうなんを　あり　そ
まるでもどうを　きる　ホニ　だらーしひ
るるよ　洋ニ　日こんりトるをおちころーて及
男の方へゆりさーるんへるまんのるるのさる
おれ　亲　モウ　いかるどんよやめるんーよ
むべ閑　あり　ナニ　ゆうまいせんのさ　このところへ家やの
天せいろりまきめをるまいつるハくろぬイのるー弟
ろりぎんのえけのるーかちのれのつりさのとおして
亲　サア　るーをいけんせう　ゆり　風町さん
まひつるさんのこーらくるるのるーで

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

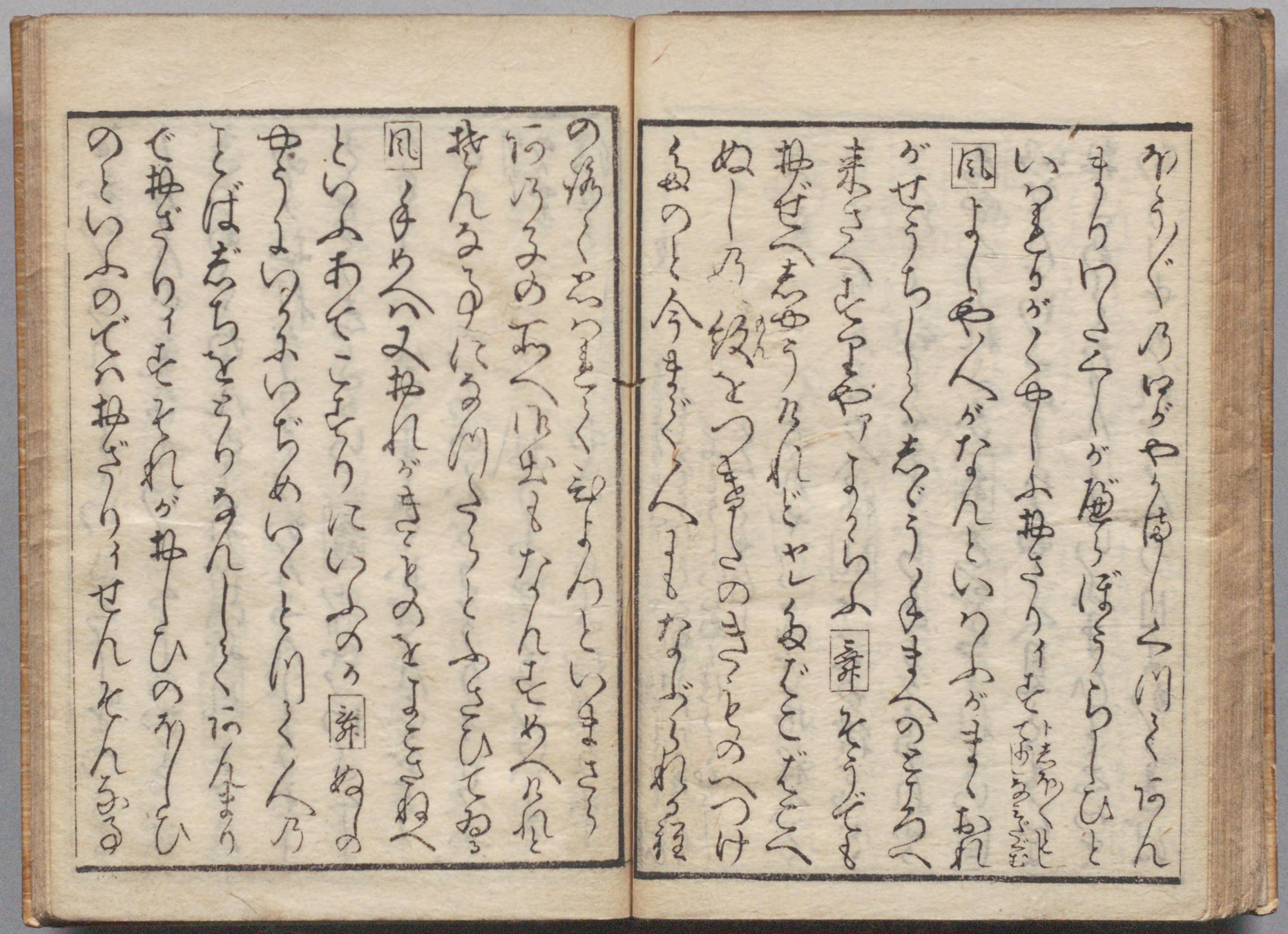
ガラス使用

おさりいとさま　きさ　あまりて　きまぐれ
なんしゃうはひとりはしり　トかれもまれわるる　風
ひらのかうぎナムーキリ　これをだのこれを
ひらのかうへのせうく
ゆかうさんのあくをいくさ　光
アイ　風　まアーかうとをしくゆらよ
トふきくのをを取　ちんそうかうり　のう　ゑけでざん
さしかうまする
せうちゆうとあやをとなんー　トかれられ
ちちの門おさしむかいよ
ろうもりうろうの九つのとけへ　○　九つ時
いひろけどろ二ろのゆうゆうのちんさうのうちよ　風

めり

りあすができさうりこさうりいひ
出りくくをとそそられくあ見よいな後くく
うはりめるいうまうしいあもまくくむさし
何ををかんくうくゆかと

森　おめくさんいこんやアノろみが　赤ゆくぐ
ねうさくなんをりめへ弥　風　十二ぐ後ゲウ
さそうう　ゑりくまぐじまるがぐゆれふう
ちやくられさふ　森　ちやくられもいい
いせんがワるくらくあとくみるもんよ
ねさめくなんまいくまひとふつて
おりくをりれどくへ乃月よかくまば



かうぐ乃ぼやうぼやうぼーこいくなんまちりけさてがぼうぼうらーひというまちがくゆーふ抜きそりイをとちゆくにてあるぞ

風 よしやんがなんといふがまくれがせうちしくちでうまへのそろへ来さくとやアようらふ 亲 そうぞまぬぜへちゆうりんどやレぬどこどこへぬーり級をつまきのきとのへつけゑのつくなつまぐくんまなぐられる程

のゑくちつまくゑようといまさうゆりるめあへ出るなんをめへりれを抜んるゆにるりくとひてゐる

風 まりへゆれがきてものをまきぬへとふあそこそりにいふのろ 亲 ぬのゆうよいふいぐめいてくとりくん乃こばぢちをちうえんしくにんまりで抜ぎりイをそれが抜ーひのりーひのこいふのでゑ抜ぎりイせんそんゐる

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

をおいてゑんしゝくわつ
しなんを氣あらつて
きわめくわんをよりくていを 風 そん
ちゝはれがうるうあかんあんしゝをし
くどうちゝさらつて 番 ソリヤアわつて
がりうちんを事ぐおざんをどう
をれべこれちの公がうをりいせふ
ぬりうしをりされをめりあをきをうをゝ はりふ
浮世とはよくおきゝめるむりる事

ちのうゝふきゝこれあるりうりとりしてあるところへ
せをりじをきうゝゝまゝあけ沖まるまがちまる 風
ゑりりてゝしてぐるれど 沖まち アイわつて
さ風町さんよはつゝんがさをれわどんあを
うゝふはざんをとれをおあんあんし
つサ 風 なんざ トこの月て見 はきあアがを
まざ辞ゝ稼へ 沖町 それをとんど
なんしをさ 初ゝちゝうよう物道 さをきる あき
まちさんゝ あき なんざんをゝ さん お
めをふるゝゝと あき ぐるれどゝ さん ムド

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

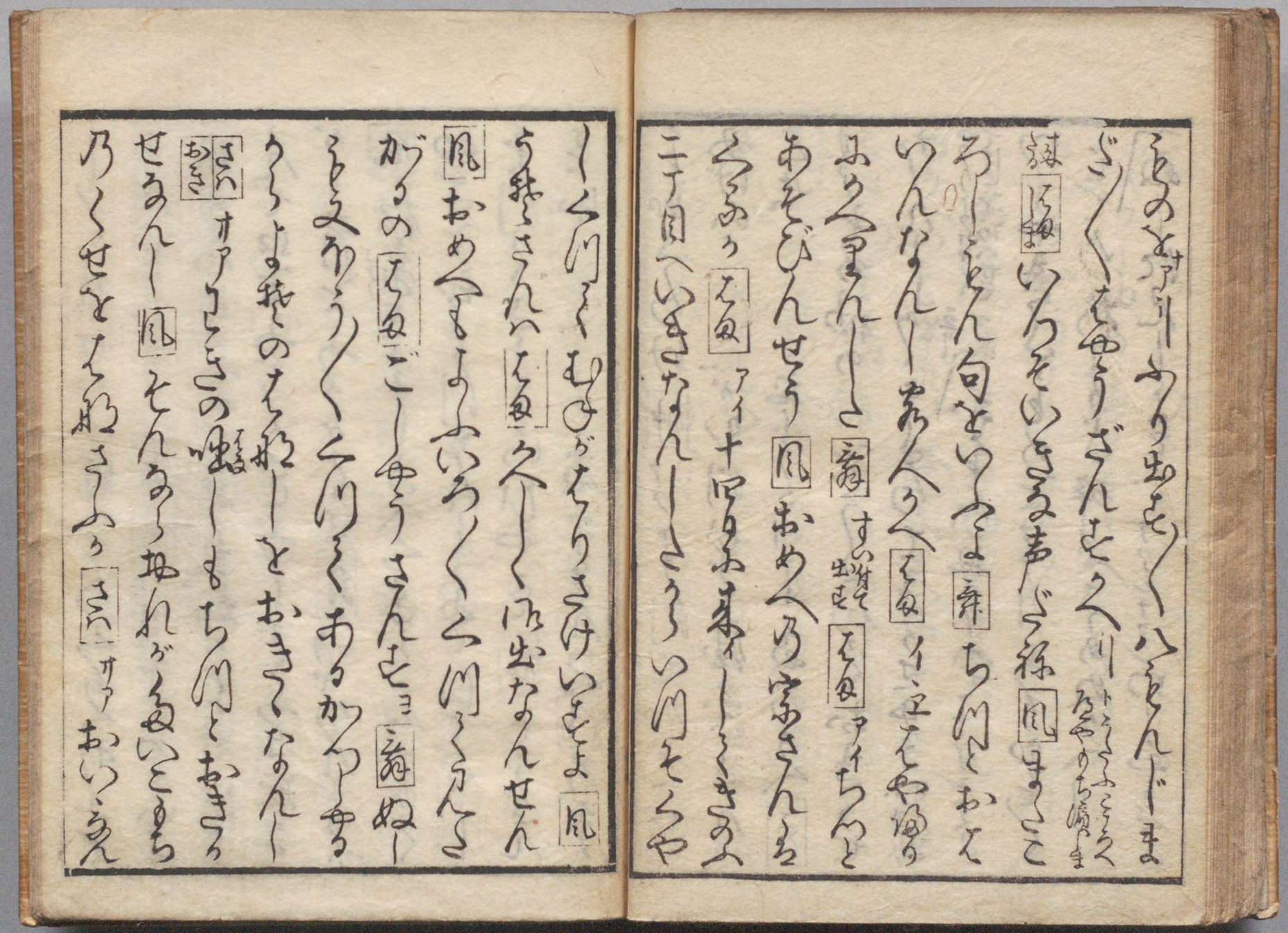
ガラス使用

ちがおき　ちつてさうそうの梅へぞよう　風流
かんうつくしく　袖乃梅をうえこいつるゆう　さん
いつつのおだうさんがあるへよとそうけさ
ちつくく本をちつくく来なんしさ
のうへこれ本乃絵ふ　ちやさんがさん
おどつくく結んしうつけ　風　行れい
神田の茅へ　ちよ　屋乃二階でこ
しらへうく義ひがをを　ちそのえ
一つ取よましらくく四つ　ちゆ　ゆしへ織よ

を出さつけ　沖　アノようりでかご城
あげいちや流がかりひぐく　徒義さんう
三味せんぐく　ちどりイしゑ乃うへ　さん
ナアその袖の梅をうくつくおきうせ
なんしうちつてきうせ　ちうトさんせんとみ
ちうとうせく　立川　おとひ梅りしてナアンナア
つやきくものをナアリ　ちり出そく
そで乃梅まちく　辞ぐさめぬりへリ
ぬしにんしよそくナアンナアンつしやきさ

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用



国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

しく 風 せい〜 福へ〜 そんくりくあつ〜
ゑんごとなるさんる 芸 ヤゞらしいよ
風 まづこゝへくる 平気 知がくるをはま
んでいをみぎりこゞ ゝつぐくふさだる
ぐゝ貢をみつがくせ 爲 ヤゝわんよの
風 松鶴がざしきへくる 右のみぎ
ゑのざを初ゝ川さんとくるひておし
そ川くざゝくといひやを 爲 そうざん
を おき そしゝく夜平さんゝ 風 夜平ら

ゑゝ川ゝ乃ゝをゝ生ゝへ生ゝいく
う川むひくゝとうゞゑ上 福夜乳
知がりア おゝゝゝひ福ゝいふ 乳爲
福孫さんゝ 風 ゝ乃ゝをゝ生ゝ
ゝをゝゞゝゝとゝくゝをゝいふ
をゝんといひやをゝ川ん宮ゞゑゝ
乃ゝまゑひ伝ゝ英ふゝ川ゝよゝく乳
夜宮ゞおゞゝゝ伝ゝ乳知がよゝ目
ゝゝくなんのかのといつがふさ 乳ま

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

だてのうしひ[風]二てうはぐさが見紙
ばかりくうりおくとおゆかうふ
とれたる板の上へちらをよせる[くるま]ぬ
とんさうまはすぐ氣をつをさんしまる
[おき]うやぬしのたれかしにうれく
おいらんのあてすもいりばよ極びすぎ
いしらぬ[ゑん]ひらさしらもめこうん
せうサアちりとはやよさこなんし
ト引ゆうぶりそこみくらうそうやたつ
のうひきこく、すのゆめをむすべゆがて茶屋のかゆひあるべ

半搭の空言

[丁〇七つ時][ゆうら]ちへなんがかつてる
のゆうぶりくたんが[ゆう]ふちち
うなんてまいてのく[ゆう]ふめる
むりるゆをいゆぜん搭ちゆうで
いげくどアまゆくん乃はき合ゆう
どこへてるゆうゆ(でどう するりんど
円しやア引ををおうてる。嬢が搭へで
まりくゆるのをかうなりて茶で

いつまでもちやアうは〻ゆ〻
がるりざ〻きたいきさとぞこのかうまんあ
がらもいくらだんよ合せそつとめてゐるせろい
[里秀] コウ〻ほめくあれがうら〻はなをを
ちまいせさうあいつをとるくされちやア
うく〻ぐそく〻ぐけ中香らくが
ぬ〻てう〻ちんをとらくされくあいさ
ちう〻あるまやアおもちのるごうる
かそく〻うさ移くけ法みてうさ
せろせくあら ナゼぬ〻ア〻く



きるんせん [里] かつ〻ちやア
けく〻きそそくあ出くれ移くこと
川〻着っ引ぐホこ三長こ系ま
とうゆるぎふんがきさ トいくあうこへを
出そそ中ふひのふ角一も中ゆうしと
おうひのか九中こ和一前でそつんでいる [女] あんの
くそそぐざく [里] ちつずそものうのさ
[女] ゆうぐくはなぜ引ケぎちんま来
るんく〻うけ [里] ウ〻ゆうだこい
中乃町ぐく梅をとめそくそふ

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

ぜん様へぜひつきあいそう
さめらまてくかるとて後へ京じ
乃侍こうが来くる玉楼へ立てべ
とゝのとけく角町の茶屋がへ
をまこと女ゝいつゝなる人
を後へ残ちのうちをうりさが
西じんうんくゝれろと目利を
いつまゝ角の出目屋が中の
町でちゝとおめよかゝるとて

とゝいかゝいつゝとんざまの
どきを有るとんざかくりんが
まてくゝ素濃の出生を引有
ておくんゝおまへさんなら
んをくてなをいくといふのうく
此星へ来ちやアかゝ女が十ウ斗りも
りひやうご星ドやア命をたぐくめ
トまこの志ほやとうぐくもてれが世
うゝまんおあきれかわをたけぐと
りんよぬしアこれゝ
ゝよいつゝへん世

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

をおぐさーなんしーこうひつまきう商夢が
おもろ〳〵 罡 なまを 妙 まげかく見
世をあ戸屋ろーそかくうん世ぐこうそ
とおうんなんしーあもっさぞたありん
せう 罡 コウてめくでくば妙 何ぐちにたぐう
うとみトいくば妙〳〵袖をにふ寄つく
ゆまを向ひく吉をぐうてある

明六ツ時

扨〳〵とけい

あつつき
夜〳〵乃袖引

○客連雨八十七八いーあうつけ今をの小冊にくこと
りれば暗とを江戸町さるおつんふなぐこなりしか
去年の秋ろうり此妙ろうといる事よなり今い
表向〳〵来るいろ〳〵の変の氣とりうり
○妙〳〵待宵十七八去年ろう家出しいくに
きろあう人〳〵もうく知ゆて所あを
ちぐめの見ろけしてよびーぐあのふうき
りあ世せうれ今の来〳〵ぐさればちぐめのうそ
をこうみ城しあーうてなぐをかさるにつき
まんぐ〳〵でと行くあ妙よんせるあうり
ちぐめのりあ世まんと金の何るありまて今ふ
中の町へちーつくあ此世あよいまぐんみぐんぞ

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

[illegible]

そのうつり絵のようなる
ぐちよやきぬぐ乃さとおりくきて
はりり氣もちんぞ命もあるまづき
おりさまり青けめり安をきく
かりとちの者人をびぐしかぐ 連雨 コウどう様
しくあり 侍青 よぐぐよとちれうきをるを
をちんせんトちんとしてうへをてまきて手 連 ナゼ姫さぐ 侍
青もやう中の町ぐおちの[illegible]ぐ孫ト月ぐ

連 よくよめ[illegible]
だりいくあぐふせュ氣てもちぐさ
さぐぐ[illegible]中の町[illegible]
侍 氣とちぐひんをめュものでも
おぐんせん今ようなちくれんん
ぞ和来いしくへりくしぐぐとん
姫んぐりりんおぐんを 連 姫さぐ
本ようきづひハ孫へぐ手めュの方ふ
きぐりのくりいのりをちのぐりん

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

ぶんようのまいつちりいちぶんうろ
めとしあんじらをる 猪 だうしよ
ぬざんさよぶぬまんくおいぐうん
やうぬすひいざのう 蓮 このくちの
ぬさだてぐ 猪人 うう 猪 ぬさひで上
んせうとにとうせうこのさちうと
ぬりちくぬさくしゃるちぬ
蓮 ぐぬ 猪 いつそ
のりせんたとの 蓮 ぐぬ
ぬあんさんまさ 蓮 ぬうさ 猪 ぬりひ
ぬりたちいぐぬまたとうぬうだひ
こうちいぐぬはされるがあそびざう
いりれど 猪 ようなんしてもぬう
ぬあうぐいぐぬざんしてもぬう
とくうとぐきくひぐぬざんとよ
ぬしとそわうをおぐすあ
んしくまぐどこうこうまんを
のとしくいさんしるよ 蓮 うまん
りのとしくまいちぐるまれい

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

えらく引こうこれあるごとくいつのうん
ざうう 結 ナニとうにおいぐくなんせん
りのようだうーひよ 連 こうがとまるさ
うう一生行つまぬといよゆうるふだゆう
ようちでもあめく 結 そしてどうすれ
へぬしのむりざとそこひすく 連 どうを
しゑへでもいつぐ行んまりなんのり
かのといだめるうう 結 いだめるしおき
なんーちゃうちゃうおぐんしゆう

いつくしのあへだうりおいぐくなんしでい
ねざんせんぐぬしのゆうよまい日く
はさ合ゆうでいでなんしく
ちーうちでいあんじなんしてふと
さんでもねとちなんをゆうるのが
できんーぬらだうちんせうこと
くそれがくろうになりいとトこうで
ふさひで　ちもけいちでん
ぬせる　ちつへちうる 連 モウ あがこのちる
さうざいいまぐいろてもそしへね

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

まるでんよ来ゆうハサ 俗 そんな
るをいひなんしてたきを合をと
たけよト折りてあるのかつてもち
朔ろの形四つ
ゆるでもやひのうハ門ふくと
ぶ家ちめく 下略

青樓夜世界 大尾

跋

花乃ちとやくよ妻を娶つて月のまへて
一枕を沢るも友まちくもも情ハつくられ
カくし家の友人何の門まち思ぬ
傾城の真つ実を信じて小興を
撥る手間とくり後世恐ろの屋し
手信をさくくの寨乃方繞ちんで
及ふ屋きんや生みあり戸産の家

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

208
特別
50

性をけつしてしと道このそなたのうち
小鉄炮乃俠通まことひとくらべ
開きべ通のうつて来人のもうをもうぬ
ぬしとまこてを母と義樓人と
とうとうもつりうり母をこをもうへの結ふ

穂並菴
旭真葉行述

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50
ガラス使用

208
50

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用

国立国会図書館　青楼夜世界闇明月 208-50

ガラス使用